

週刊為替市況見通し

2010/3/8
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京ドル/円(銀行間)	88.87	89.45	88.14	89.38	89.70~93.00

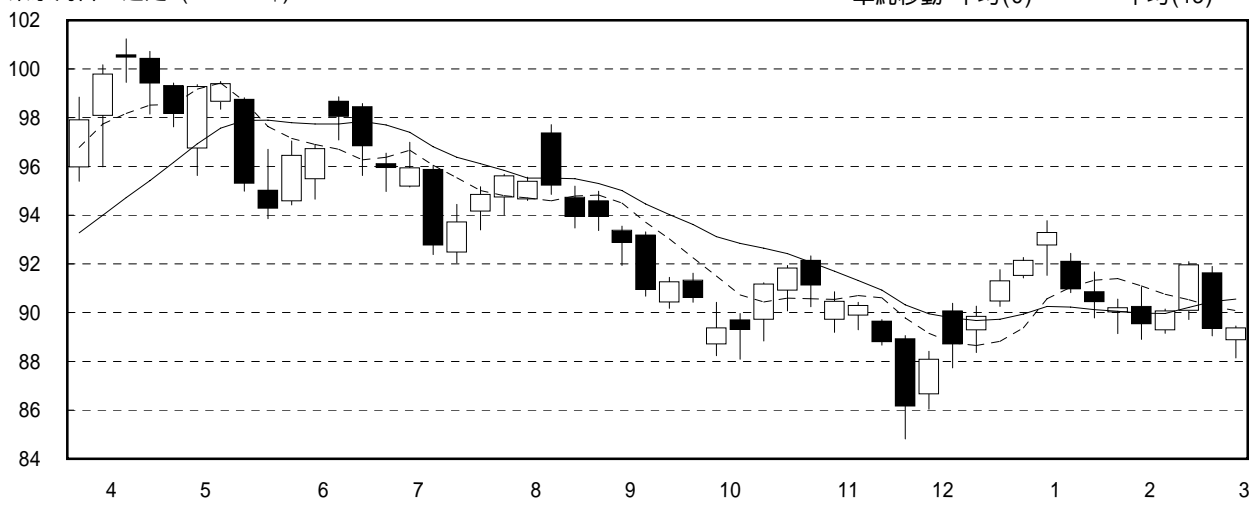
【今週のポイント】

	予想	前回
3/8米) 1月独鋳工業生産(前月比)	+ 1.0	- 2.6%
3/9英) 1月英貿易収支	- 70	- 72.78億ポンド
3/10独) 2月独CPI改定値(前月比)	+ 0.2	- 0.6%
3/10米) 1月米卸売在庫	+ 0.2	- 0.8%
3/11豪) 2月豪雇用統計		
3/11中) 2月中国CPI、PPI、固定資産投資、鋳工業生産、小売売上高(国家統計局)		
3/11米) 米新規失業保険申請件数	46.0	46.9万件
3/11米) 1月米貿易収支	- 410.0	- 401.8億ドル
3/12独) 2月独卸売物価指数(前月比)	+ 0.3	+ 1.3%
3/12米) 2月米小売売上高	- 0.2	+ 0.5%
3/12米) 3月米ミシガン大消費者信頼感指数速報値	73.6	73.6

先週のドル円は 88.98 円からスタート。88.13 円を経て 90.30 円で越週。ユーロドルは 1.3432 ドル安値を経て 1.3735 ドルを経て買い戻しで反発。1.3621 ドルで越週した。ドル円は4日の米国時間での 88.50 円から 89 円越えへの仕掛け買いが入り急反発。89.70 円を下値に円安トライの可能性が見えて来ている。ユーロの買い戻しが活発となるなかでユーロ円で 121 円越えの買いが持ち込まれ、目先はユーロ、ドル円、ユーロ円の戻りが見られる可能性あり。2009年に積み上がったユーロロングのポジション調整の動きは次第にユーロ売り先行で売りがたまりつつある。目先の戻りが綾戻りである可能性もあり目先の 1.39 ドルから、最大では 1.41 ドルへの戻りを経ての反落もありうる。欧州域内ではギリシャ、ポルトガル、スペイン等財政悪化問題が依然、注目される。ドル円は日銀の金融緩和継続で再度キャリー通貨化し、短期資金フロー主体で円安地合いも。目先の円高傾向は一巡。

東京為替 週足 (YEN/US.\$) 2009/03/27-2010/03/05

----- 単純移動 平均(6) ———— 平均(13)



当レポートは情報提供を目的としており、お取引の判断はご自身で行ってください。

週刊貴金属市況見通し

2010/3/8
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京金	3,202	3,270	3,183	3,262	3,240 ~ 3,380
東京銀	47.0	50.0	46.7	49.8	48.0 ~ 54.0
東京白金	4,398	4,523	4,360	4,508	4,450 ~ 4,650
東京パラジウム	1,215	1,325	1,211	1,322	1,300 ~ 1,450

【今週のポイント】

貴金属	・ 為替相場、米国株価、債券相場
-----	------------------

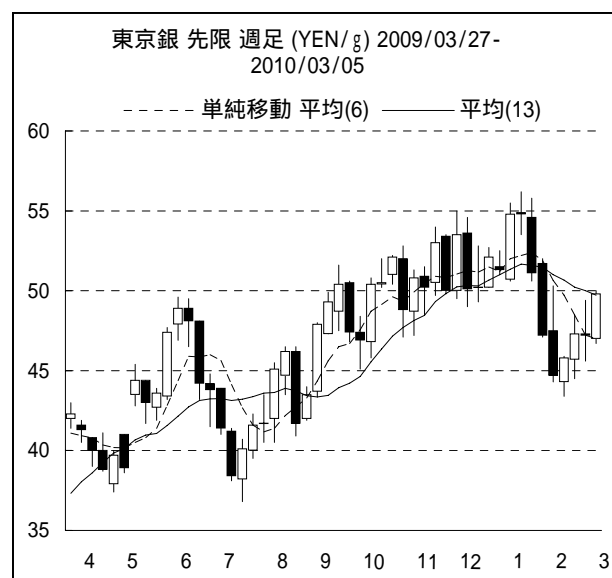
【金】

先週の金相場は週初安値 1111.65 ドルから反発。高値 1144.60 ドルを経て 1131.65 ドルで越週した。ユーロドルは 1.3735 ドルへの戻りを経て 1.3621 ドルで越週。ギリシャ財政悪化問題を織り込みつつ、12 月以来蓄積されたユーロショート買い戻しが入り始めている。金は 1100 ドル以下での現物実需を背景に下値を切り上げてきている。足元は 1120 ~ 1115 (1100) ドルを下値に上向き傾向を継続する見通し。引き続き米金融政策は政策金利である F F レートの誘導目標を低位で維持することが見込まれ、先行する株価上昇を映し、金市場にはプラス。なお、円は日銀の緩和先取りで先週末は円単独売りとなった。目先は 89.70 円を下値に 93.00 円への円安トライもありうる。東京は全般下値切り上げへ。3240 円を下値に買いスタンス継続。



【銀】

NY 3 月限は安値 1632 セントを下値に反発した。高値 1750 セントを経て 1737.20 セントで越週した。目先は 1677 ~ 1655 セントを下値に上向き継続。1800 セントへの戻りも見込まれる。東京は 49 円越えて堅調推移となり、目先は 48 円を下値に上向き継続へ。



週刊貴金属市況見通し

【白 金】

先週のNY 4月限は安値 1540 ドルを下値に反発した。高値 1589.40 ドルを経て 1579.10 ドルで越週した。3月入りとともに上昇傾向が強まっているが、欧州市場での地合いが強い。目先は 1588~1544 ドルを下値に上向き継続。1月上旬に見られたETF中心の短期買いが一巡し、一旦押し調整に入った後は継続的に売りが出る環境にはない。中国アジアの実需が下値を支える。触媒向け需要の停滞を宝飾需要の堅調がメインの需要牽引ファクター。米国市場でのETF取引開始は短期需給をタイト化させている。売りは利食い売り主体で。東京は 4500 円越えに下値を切り上げてきており確り。上向き傾向を維持しよう。



【パラジウム】

NY期近は週初 433 ドルを下値に反発。続伸し 480 ドル高値を経て 476.70 ドルで越週。目先は 450 ドルを下値に上向き継続。東京は 1300 円越えで上向き傾向が見えて来ている。



週刊原油・石油製品市況見通し

2010/3/8
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京原油	44,170	44,820	43,320	44,650	45,000 ~ 47,000
東京ガソリン	52,880	54,590	52,540	54,450	54,000 ~ 57,000
東京灯油	50,640	52,370	50,430	52,270	52,000 ~ 55,000
東京軽油					

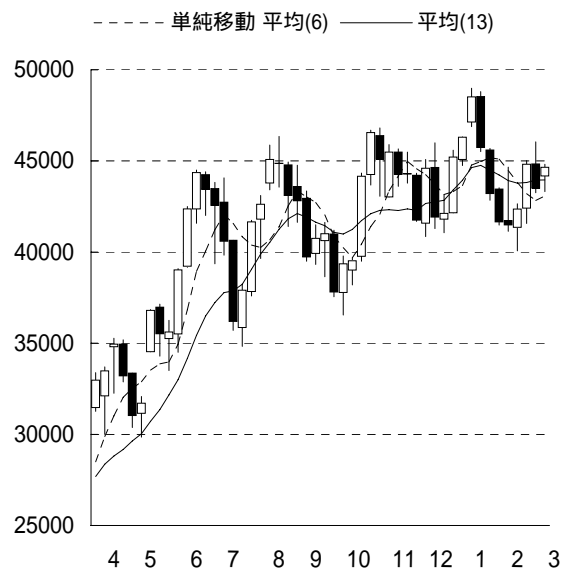
【今週のポイント】

原油	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国石油在庫 ・ NY 暖房油の推移
石油製品	<ul style="list-style-type: none"> ・ W T I 原油、ドバイ原油の推移 ・ 為替相場

【原油】

W T I 3月限は先週は78.06ドル安値から反発。週末高値82.07ドルを経て81.50ドルで越週した。目先は79.20~78.70ドルを下値に上向き傾向となっている。米国需給はN Y M E X 受渡しポイントの在庫が1月年初をピークに減少しつつあり、クラック(対原油価格差)はガソリンを主体に14ドル台へと拡している。いまだ景気後退相場を展開中だが、目先はドル安傾向もあり下値切り上げへ。

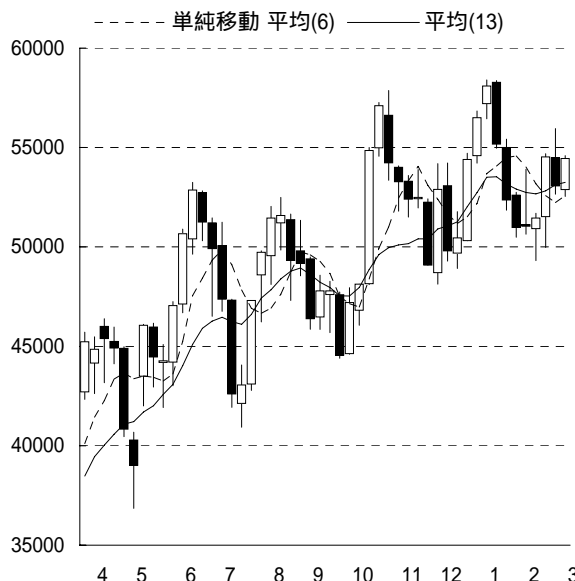
東京原油 先限 週足 (円/1kl) 2009/03/27-2010/03/05



【ガソリン】

東京市場は、W T I の上昇を映して50000円を下値に反発。常態的にサヤ滑り傾向が強いものの、ここにきて順ザヤから当限主導で確りとなり逆ザヤ化の傾向。京浜現物市場は、3月入りの在庫積み上げ期に入ってきており、灯油からガソリンへの販売主体が交替。元売りの市中調達買いの影響力が強まりつつある。54000~55000円を下値に反発傾向持続。方向感は一上向きを維持。

東京ガソリン 先限 週足 (YEN/kl) 2009/03/27-2010/03/05

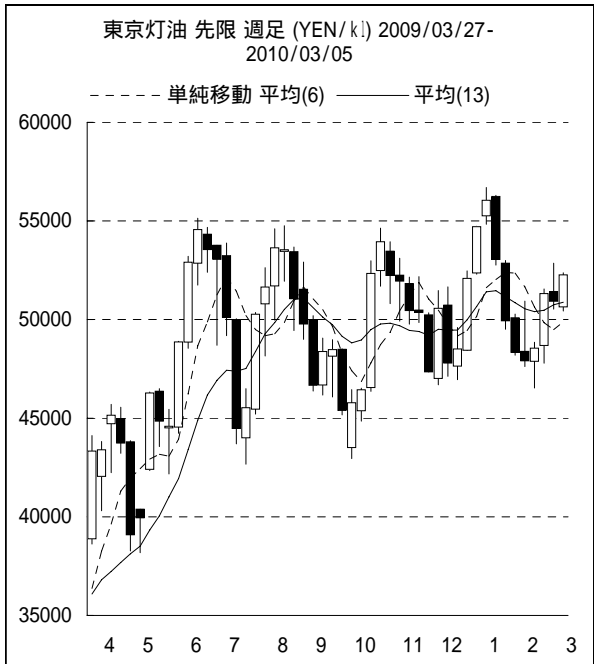


当レポートは情報提供を目的としており、お取引の判断はご自身で行ってください。

週刊原油・石油製品市況見通し

【灯油】

京浜は足元、冬季需給期を経て販売ピーク明けへ。当限が下げ渋りつつ、販売期明け後の3月限以降は次第に変動タイミングがWTIと一致。ここからは低在庫のもとで下げ渋り場面へ。2月半ばには京浜での販売最盛期はピークアウトして行き、次第に売買の中心はガソリンとなる。川上では在庫圧縮にかかりシーズンオフを迎えて行くため、灯油単独の続落は無し。売り込み警戒で。



【軽油】

京浜現物市況は次第に上値に重さありとの見方もあるが、西日本では設備定修を背景に、市中調達に買いに確りと、東西では需給は強弱感がわかる。中間留分としては灯油よりも需給は緩和気味。

週刊大豆・トウモロコシ市況見通し

2010/3/8
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

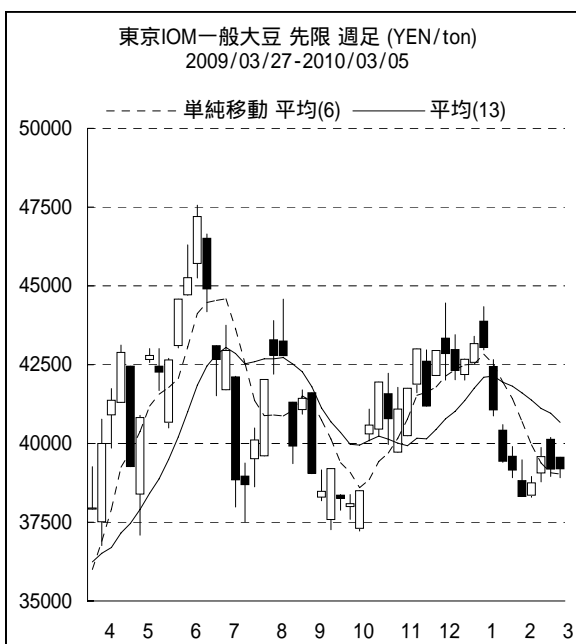
	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京一般大豆	39,560	39,560	38,910	39,190	38,000～41,000
東京NON-GMO大豆	47,230	47,460	46,810	47,260	45,500～49,000
東京とうもろこし	21,120	21,480	21,070	21,480	20,500～22,500

【今週のポイント】

大豆	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南米産の収穫・輸出 ・ 米農務省需給報告（10日） ・ 米国の作付予想
トウモロコシ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国のエタノール政策 ・ 米農務省需給報告（10日） ・ 米国農家の作付計画

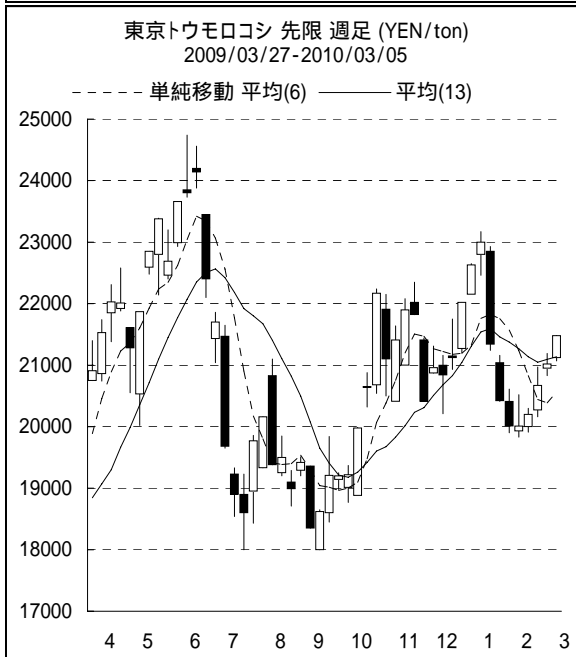
【大豆】

先週のシカゴ大豆は、940～960セント前後での保合が継続。東京一般大豆は39,000円台での保合、NON大豆は47,000円前後での小動きが続いている。2月の米農務省農業観測会議(アウトック・フォーラム)で発表された2010/11年度の米大豆生産見通しは作付面積が前年度から小幅減、在庫率も長期的に10%を割りこんだ状態が続くと予想が示されているが、市場の反応は薄い。南米での収穫が進展、輸入需要も米国産から南米産へシフトし目先の圧迫要因に。10日には米農務省が需給報告を発表するが、市場の関心は31日発表の作付意向面積や、作付を控える耕地の天候に向き易くなるか。保合から動意待ち。



【トウモロコシ】

先週のシカゴトウモロコシは370セント前後での保合継続。東京トウモロコシは、21,000円を支持に上値を伸ばした。南米アルゼンチンでは一部で降雨の影響により収穫作業が遅れているが、ブエノスアイレス取引所は同国の生産高を2,020万トンと予想、2月に米農務省が発表した1,720万トンを大幅に上回る。また、米国の2010/11年度生産も、作付面積の大幅増が見込まれるものの、米国ではエタノール向け需要の予想が支援となっている。10日には需給報告、31日には作付意向面積が発表、4月には作付が始まることから、次第に米国産地の天候を意識しやすくなる。需要の強さを背景により下値が堅く、緩やかに上昇傾向。



週刊粗糖・コーヒー市況見通し

2010/3/8
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京粗糖	40,860	40,870	37,640	38,560	39,000 ~ 43,000
東京アラビカコーヒー	21,260	21,680	21,030	21,170	20,600 ~ 22,500
東京ロブスタコーヒー	15,480	15,480	14,290	14,320	14,000 ~ 16,000

【今週のポイント】

粗糖	<ul style="list-style-type: none"> 2010/11 年度の増産見通し インドの生産の上方修正
コーヒー	<ul style="list-style-type: none"> 商品指数と為替の動き ブラジルの生産

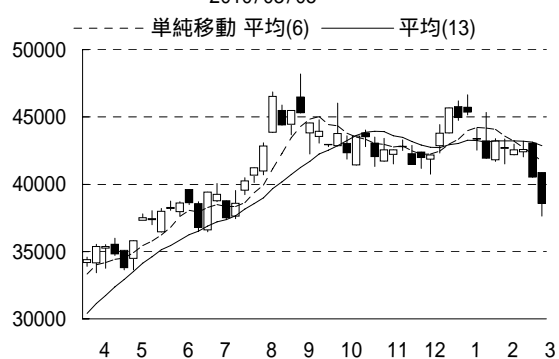
【粗糖】

先週の NY 粗糖は一時 21.12 セントまで下落したが、22 セント前後で下げ渋りとなっている。東京粗糖は一時 38,000 円を割り込んだが回復して越週した。2008/09 年度、2009/10 年度の 2 年連続の大幅供給不足と、インドの純輸入国転換によって一時 30 セントまで上昇した NY 粗糖は、2010/11 年度の供給回復見通しもあって軟化している。インドでは 2009/10 年度の砂糖生産を上方修正するが国内需要を満たすには至らず、また米国でも砂糖の輸入が必要とされるなど需要は強い。当面のひっ迫感は後退でも緩和までは至らず、ここからの一段安にはなりにくい面もあるが、戻りがあれば売られやすいか。

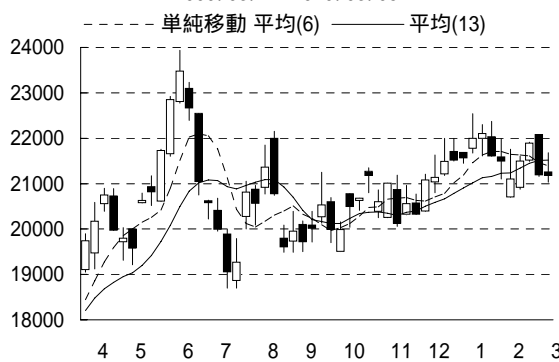
【コーヒー】

先週の NY アラビカは 126 ~ 130 セントでの保合継続。東京アラビカは 21,000 円を支持に小動き。内外ともに保合が続き、方向感が弱い。2009/10 年度は、ブラジルの裏作と中南米の天候不良による減産となったが、2010/11 年度はブラジルが表作となり、コロンビアなどの生産も回復する見通し。ブラジルでは主産地の 1 つ エスピリトサント州での干ばつは緩和しているものの、収穫は当初の予想からは下方修正が見込まれる。世界の消費の拡大傾向が続くが、現状では供給不安は見られず、動きにくい。保合継続から動意待ち。

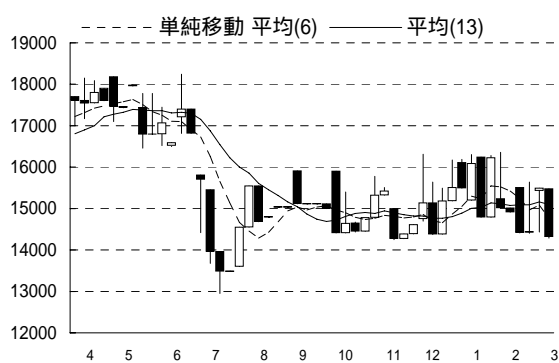
東京粗糖 先限 週足 (YEN/ton) 2009/03/27-2010/03/05



東京アラビカコーヒー 先限 週足 (YEN/69kg) 2009/03/27-2010/03/05



東京ロブスタコーヒー 先限 週足 (YEN/100kg) 2009/03/27-2010/03/05



週刊ゴム・小豆市況見通し

2010/3/8
岡藤商事株式会社

【先週の値動き】

	週始値	週高値	週安値	週終値	今週の予想レンジ
東京ゴム	295.3	300.9	284.4	290.6	280.0 ~ 320.0
東京小豆	11,160	11,240	11,000	11,000	11,000 ~ 12,000

【今週のポイント】

ゴム	<ul style="list-style-type: none"> 株式市場、為替市場の推移
小豆	<ul style="list-style-type: none"> 2010年の作付計画

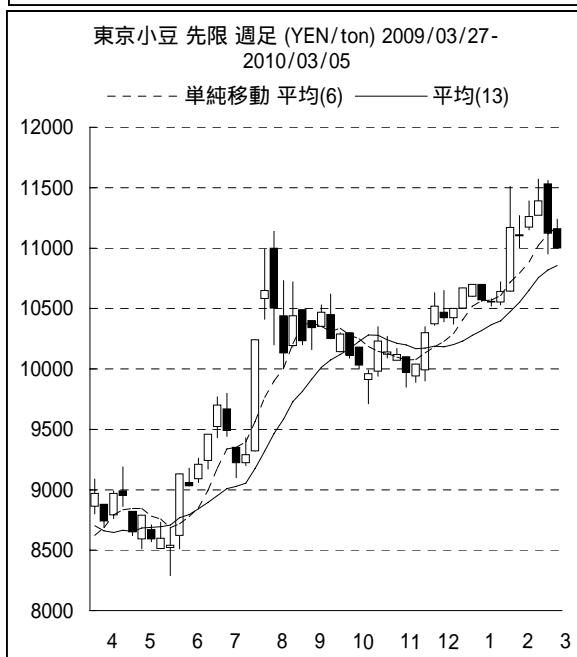
【ゴム】

先週の東京ゴムは一時 284.4 円まで下落したが、290 円を回復して越週した。1月に306.0 円を達成後伸び悩み反落。265.6 円を安値に 300 円を回復したものの、1月高値を抜けずに反落している。2月の自動車販売は、国内が軽自動車含むで前年同月比 20.4%増、米国は前年同月比 13.3%増と堅調。トヨタの大規模リコールの問題による、販売全体への影響は限定的となっており、需要は堅調。現状は再度 300 円を上抜くと長期の上昇トレンド継続。300 円が重いと 285 ~ 300 円の保合入りも。



【小豆】

先週の東京小豆は 11,200 円前後で伸び悩み、11,000 円へ反落して越週した。2月限納会、8 月限新苧以降上値に重さが出ているが、11,000 円前後が支持となっている。小豆の消費地在庫は 2 月末時点で 12 万 0,757 袋(1 袋 = 30kg)で、前月からは 2,512 袋減。前年の北海道の不作で国産の在庫が減少、輸入品の中心である中国産も、中国国内の雑穀価格が上昇しており下値を支える。今後は国内の今年度の生産意識されるが、当面は 11,000 円前後での推移か。軟化でも 10,600 円前後が支持。



[商品先物取引に係る留意点について]

2010年3月1日現在

商品取引員 日本商品先物取引協会会員

岡藤商事株式会社

・取引証拠金について

商品先物取引は委託に際して取引証拠金等の預託が必要になります。最初に預託する取引本証拠金の額は商品により異なり、2010年3月1日現在、最低取引単位（1枚）当り最高165,000円、最低18,000円です。ただし、その後の相場の変動によって追加の預託が必要になることがありますので、注意が必要です。またその額は、商品や相場の変動によって異なり、一様ではありません。

・手数料について

商品先物取引の委託には委託手数料がかかります。その額は商品によって異なり、2010年3月1日現在、最低取引単位（1枚）当り最高9,135円、最低714円です（片道・消費税込・先限ベース）。

※ 取引証拠金・手数料については、銘柄・約定値段等によって変わりますので、この書類の作成日以降の額はその都度担当者へご確認ください。

・商品先物取引のレバレッジについて

商品先物取引による取引の額は、最初に預託する取引本証拠金の額に比べて著しく大きい額となります。具体的には、商品によっても異なりますが、2010年3月1日現在、取引本証拠金の額の約13倍から約32倍の額にもなります（先限ベース）。

・商品先物取引のリスクについて

商品先物取引は相場の変動によって損失が生ずるおそれがあります。また、取引本証拠金の額に比べて何十倍もの金額の取引を行うため、その損失額は預託している取引証拠金等の額を上回ることがありえます。

◆ お取引に関するご相談は

① 当社お客様相談窓口：東京都中央区新川 2-12-16 TEL 03-3552-1203

② 日本商品先物取引協会相談センター本部：東京都中央区日本橋小網町 9 番 4 号

TEL 03-3664-6243

◆ 当社企業情報に関するディスクロージャー資料は当社の本・支店、日本商品先物取引協会の本部・支部および HP で閲覧できます。